

## 6月のコロナウイルス感染症対策及び今後の保育について

### 1 6月の保育について

5月25日政府の緊急事態宣言の解除をうけて、保育園等への登園自粛要請が6月1日から解除となりました。多くの保護者の皆さま方には4月に入ってから約1か月半もの間、大変ご苦労とご心配をおかけしたことと思います。乳幼児期の子どもたちは、あそびの中で身体全体を使っているいろいろなことを学んでいます。また、その学びを群れの中で試しながら自分のものにしていくのが乳幼児期の特性です。これまで新型コロナウイルス感染症予防対策で戸外の活動はいろいろな制約を受けていましたが、これからはコロナ感染症対策には細心の注意をはらいながら、近隣に新型コロナウイルス感染症の発生が無い限りしっかり戸外の活動を楽しめるようにして参ります。

### 2 当園の保育はコロナ感染者はいないことが前提です

緊急事態宣言が解除されても新型コロナウイルス感染症が収束したわけではありません。北海道や東京、神奈川県では、なお毎日感染者の発生が続いています。また、北九州市のように4月の終わりから感染者が出ていなかったのに、5月23日に感染者が発生するや連日のように何人もの発生が報告されています。この感染症は一度拡大に転ずると爆発的に急増するので用心する必要があります。

大人社会は、感染者が身近にいるという前提で周囲の人と距離をとるなどガードをしますが、子どもの世界は「だっこして」であったり、くっつきあって遊ぶ世界です。いうなれば「コロナ感染者はいない」という前提で保育しますので、一人の感染者が発生しても保育は中断してしまいます。感染者の発生を防ぐことは乳幼児施設にとって最大の注意事項となります。

については緊急事態宣言が解除されても、これまで通り体温測定や手洗い消毒の励行、登降園のマスク着用のほか、不要不急の外出、人の密集、近距離での会話、換気の悪い空間をさけるなど、感染防止に十分な注意をして下さい。やむなく他府県に行かれた方は必ず体温や体調に注意して、少しでもおかしいと感じたら登園をしないようにしてください。なお、6月から暑さ対策として園児職員とも活動の内容で園内でのマスク着用をしないことがあります。不安に思われる方は担任に申し出て下さい。2歳未満児はこれまで通りマスク着用は不要ですが、これも保護者の判断とします。

### 3 今後の園行事について

これまで、春の遠足や参観日、運動会、一年生を囲む会（カレーパーティー）、保護者親睦会など（園ごとに違いがあります。）いろいろな行事が延期になっています。本来ですと、年長児の一泊保育や夏祭り、運動会（未実施園）の準備などに入るところですが、今年はコロナ感染症が収束していないので、はっきり期日や内容を決めることができませんが、収束するまで何もしないのでは教育・保育になりません。子どもたちにとって、今年の夏は一生に一度しかありませんので、「コロナと共生しながら楽しい保育」をテーマに、「子どもたちが自分でやりたいことを自分で選び、仲間と力を合わせ、考えたり工夫しながら集中できる環境づくり」に努めてまいります。

行事等決まり次第、きつず・ノートなどでお知らせします。

今年度は、いろいろな空間を職員そして子どもたちと一緒に考え、工夫して楽しい空間にしていこうと実行中です。

先月園だよりでお知らせした第一弾の園庭の棚。いったいどんな風になったでしょう？

まずは、ペットボトル・カップなど身近な廃材を置いてみよう



すると…

興味津々の子どもたちの姿が…

様々な人の協力で棚の中はいろんなものでいっぱい。

そして、あそびへと広がっています。



保護者の方からも、廃材を募集しています。こんなおもしろいものあるけど子どもたち遊べないかな？というものがありましたらぜひ担任まで声をかけてください。子どもたちの夢中になる姿をこれからもお届けしていきますね。

今よりもっと楽しくを大切に

コロナウイルスの影響で、5月も登園自粛延長となりましたが、保護者の皆様には引き続きご理解とご協力いただいておりますことに心から感謝いたします。緊急事態宣言の解除を受け、少しずつ収束の兆しが見えてきているようですが、気を緩めることなく継続して園でも玩具の消毒や換気など徹底していきたくております。保護者の皆様におかれましては、引き続き、検温、マスクの着用、手指消毒にご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

さて先日、園舎そばを通りかかった地域の方が「ようやく子どもたちの元気な声が聞こえてきましたね。子どもたちの声はいいですね。」と声をかけてくださりました。今までであれば当たり前のように聞こえていた声も、コロナの影響で、園舎の中は静まりかえっていた為、地域の方から頂いた言葉にとってもあたたかい気持ちになりました。そして、子どもたちの元気な声を今以上に大切にしていかなければいけないと感じた瞬間でした。まだまだ様々なことが自粛ムードで、保育園においては、楽しみにしていた行事が延期や中止となっていますが、出来ないことに着目するのではなく、この状況だからこそ出来ることはないか、子どもたちとそして保護者の方々と楽しいことができないか、職員と日々話をしながら計画しています。

そのひとつとして、先日“手洗いを子どもたちと楽しくやりたい”という職員の提案から、歌を作ってみてはとアイデアが広がり、年長さんの協力のもと、第二みみよう保育園の手洗いの歌が完成しました。近々おうちで、子どもたちが口ずさむ姿が見られるのではないかと思います。いつも習慣的に行う手洗いも、歌を口ずさむとなんだか楽しくなり笑顔がこぼれてしまいます。こうした今だからこそ、当たり前に行うことも、より楽しくしていくために私たちも日々様々なことを工夫しながら挑戦していきたいと思っています。後日きつずノートで歌を配信しますので、楽しみにしていってくださいね。

今年度のみみようグループのテーマは引き続き「0歳からの幼児教育～選択と集中～そして」です。

赤ちゃんの時から、好きな大人との愛着を基盤に子どもたちは様々なものに興味関心を抱き、自らやってみたくて試したり考えたり、工夫していきます。今、園庭においても、乳児さんは、あちこち探索しながら、蛇口から出てくる水に背伸びして手を伸ばし、水が手に触れる感触や冷たさを味わったり、花壇の下に虫がいることを発見し、地面に全身をくっつけて覗き込んだりと興味を持ったことに小さな身体をいっぱい使って試しています。幼児組の子どもたちは、虫探しに泥だんご作り、色水あそびと一人ひとりの子どもが、やりたいという気持ちを発揮し、泥だんごづくりでは、最初は、なかなか砂が手の中で固まらず試行錯誤していましたが、水の量を増やしたり、握る加減を変えてみたり、時には砂の違いに気づき、場所を変えながら作るなど、作る過程の中で、考え工夫し何度も繰り返し試しています。私たちは、こうした子どもたちの姿を日々大切に、保育の中で繋げていながら、“今日はこれして遊びたい”と毎日保育園に行くことがわくわくするような保育を目指していきたいと思っています。

そして、保護者の皆さまにも子どもたちの夢中で遊びこむ姿を1階ロビーのモニターやきつずノートなどでお届けしていきながら一緒に喜びあい、語り合えたらと思います。

最後になりましたが、今年度より、第二みみよう保育園の主任になりました。岩槻由紀です。子どもたち、職員はもちろん保護者の皆様と一緒に毎日がワクワクするような楽しい保育を進めていきたいと思っています。何かありましたらいつでも声をかけていただけたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

主任



子育て応援メッセージ

小さいときは手をかけて  
大きくなったら心をかける

髪を結んであげたり、抱っこしたり、小さい時は手をかけてあげることができます。でも、大きくなるにつれて子どもは手から離れていきます。その分、心をかけてあげましょう。心の成長は、大人になるための大切なステップですから。

著：宇津崎光代「大丈夫だよ  
お母さん」より  
いろは出版

地震・水害に備えよう

消さないで  
あなたの心の  
注意の火



広島市南消防署  
警防課 救助係